

泉の森



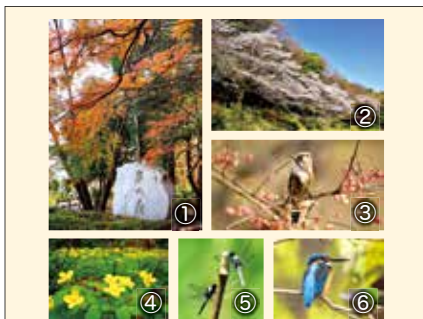
【交通のご案内】-----
 相鉄線・相模大塚駅から泉の森まで徒歩10分(しらかしのいえまでは15分)
 小田急線・鶴間駅から泉の森まで徒歩15分(しらかしのいえまでは25分)
 小田急線／相鉄線・大和駅から泉の森まで徒歩25分(しらかしのいえまでは30分)
 相鉄線・相模大塚駅北口からコミュニティバス「やまとんGO」で往路7分、復路16分(料金片道150円)
 小田急線・南林間駅東口からコミュニティバス「やまとんGO」で往路19分、復路28分(料金片道150円)



泉の森は大和市最大の緑地で、その面積は約42ha。東京ドーム約9個分の広さがあります。その名がしめすとおおり、この森の中には引地川^{ひきじがわ}の水源があります。広い水辺があることによって、植物をはじめ昆虫や野鳥など、さまざまな生き物たちが生活する、市内でも最も豊かな生態系が維持された緑地となっています。

このハンドブックは、森の四季折々の豊かな表情はもちろんのこと、緑地ボランティアの活動や森の知られざる課題などを紹介し、より泉の森を知っていただくことを目的に作られました。何気なく歩いているだけでは気づきにくい、さまざまな面からの情報が集められています。

これを読めば、泉の森での散歩やピクニック、自然活動などの際に、きっと再発見があるでしょう。



表紙の写真

- ①秋の園名石(T) ②ソメイヨシノ(T)
- ③コゲラ(Sk) ④ヤマブキソウ(Kb)
- ⑤オオシオカラトンボ(Sk)
- ⑥カワセミ(Nm)

●このハンドブックの写真について

写真の中にあるカッコつきのアルファベットは撮影者を表しています。23ページを参照してください。



春の散策路(T)



カワセミ(Nm)



水車小屋とヤマザクラ(T)

大和市は平坦な相模野台地上にあるため、多くの土地が開発され、緑地もその影響を大きく受けてきました。その中であって泉の森が大きな緑地として残されているのには二つの理由があります。

一つは大和水源です。以前、この水は西鶴間地区の生活用水として利用されていたため、北側の水源を含む約10haの樹林が神奈川県により水源涵養林として保全されてきたのです。

もう一つの理由は、厚木飛行場です。泉の森は飛行場の滑走路の延長線上に位置しています。その立地から国が防衛施設用地として買収を進めてきました。また、昭和30～40年(1955～65年)には飛行場に離着陸する軍用機の墜落事故が相次いだことから、この地域に住んでいた住民の土地を国が買収し、樹木を植えて国有地として管理しました。

このような背景があったため、ここには広大な緑地が残されてきたのです。その後、この場所を有効に活用するために



泉の森航空写真(KTM)

昭和62年(1987年)から引地川公園計画の一環として泉の森の整備が始まりました。散策道や駐車場に始まり、緑のかけ橋や水車小屋などの施設、郷土民家園やしらかしのいえなどの建物が整備され、最終的に平成9年(1997年)にすべての施設が完成しました。

このように残された泉の森は、今では豊かな自然が形成され、多くの生き物が息づき、来園者に親しまれている場所となっています。この環境を維持するため、土地の確保はとても重要です。公有地以外の私有地は所有者のご理解の下、土地をお借りしています。様々な方のご協力があり、森は守られているのです。

水辺の役割



平常時の調整池(T)



豪雨時の調整池(T)

泉の森が整備される前の昭和57年(1982年)から、水辺一帯は台風や集中豪雨の際に一定量を超えた雨水を一時貯める上草柳多目的利用調整池となりました(最大貯水量75,000トン)。しらかしの池東側の水路からは周辺地域の雨水も流れ込むので、短時間にまとまった雨が降ると水辺周辺はたちまち水浸しになり、時には水位が3mも上昇します。ここに暮らす生き物たちには過酷な環境かもしれませんが、このようにして引地川が氾濫することを防いでいるのです。

園内地図

泉の森は開放型の緑地ですので、24時間365日出入りが可能です。
 駐車場は開場時間が決まっていますのでご注意ください。



園内施設紹介

緑豊かな泉の森にある施設は、この森をより深く知ってもらうためのもの、昔懐かしいもの、観察のためのものなどさまざまです。各施設は自然と調和するよう、すべて木製です。

自然観察センター・しらかしのいえ

泉の森を管理する職員が常駐しています。館内で泉の森に生息する生物を飼育・展示しているほか、2階の展示スペースや約60人収容可能な多目的ルームを、自然に関する活動をする団体・個人に貸し出しています。飲食が可能な土間には薪ストーブがあり、冬季に冷えた体を温められます。各種行事の企画や、園内での落とし物の受け付けもしています。図書コーナー・トイレ・自動販売機・公衆電話あり。車椅子での利用もできます。

開館時間 9:00~17:00。月曜および年末年始休館(月曜が休日の場合は翌平日休館)。入館無料。電話番号046-264-6633



(T)



(T)



(T)



(T)

郷土民家園

大和市内で江戸時代に建てられた民家2棟を移築・復元してあります。昔の農具や季節ごとの風習を展示したり、各種教室の開催をしています。季節の花も鑑賞できます。トイレなし。園内での食事はできません。

開園時間 9:00~16:30(7/21~8/31は17:00まで)。月曜および年末年始休園(月曜が休日の場合は翌平日休園)。入園無料。電話番号046-260-5790



(T)

泉の森ふれあいキャンプ場

内カマド16基、外カマド16基を備え、食材を持ち込んでバーベキューなどで利用できます。炊事用品の無料貸出や薪の販売もあります。トイレ・自動販売機・遊具あり。デイキャンプ場のため、宿泊はできません。

開場時間 9:00~16:00(7・8月は18:00まで)。12~2月の平日および年末年始休場。使用料無料。要予約。予約は046-260-5795まで。



(T)

緑のかけ橋

水辺にかかる延長53mの吊り橋は完成当時、木製斜張橋として日本一の長さでした。



(T)

売店

土・日・祝日の11:00~15:00のみ営業。軽食や玩具を販売しています。トイレあり。



(T)

ふれあいステージ

しらかしの池に張り出した水上ステージです。水鳥や魚などが観察できます。



(T)

水車小屋

直径3.64mの水車が回り、内部には杵と臼があって精米をする機能があります。



(T)

展望デッキ

しらかしの池を西側の高い位置から臨むデッキです。池を一望できます。



(T)

ハッ橋デッキ

ショウブ田にかかる木製デッキです。トンボや花に集まるチョウも見られます。

園内各地紹介

国道246号線の南北に広がる泉の森は、国道より北側はおもに森林に、南側はおもに水辺となっています。このためさまざまな環境が見られます。



(T)

しらかしの池

園内最大の池で、水鳥や魚、トンボなど多くの生き物の生息場所になっています。池の中に入ることはできません。



(T)

湿生植物園

緑のかけ橋の下に広がる湿地で、ハンゲショウ、ミソハギ、ジュズダマなど、湿地に生える植物を数多く観察できます。



(T)

大和のシラカシ林

しらかしの池西側の斜面に残るシラカシ林は昔の景観を残す貴重なもので、神奈川県の天然記念物になっています。



(T)

大和水源地

大池と小池という2つの池があり、引地川の源流となっています。水源地はフェンスで囲われており立ち入りできません。



(T)

遊びの小川

水深が浅く整備された小川で、水遊びやザリガニ釣りを楽しむことができます。園内で水の中に入れる唯一の場所です。



(T)

しらかし広場

しらかしの池の横に位置する大きな広場で、小学校の遠足などでレクリエーションの場や昼食場所としてよく使われます。



(T)

森のはらっぱ

園内の最北端に位置し、カントウタンポポやウバユリが多い場所で、周囲の木道から観察できます。



(T)

泉の滝

水車小屋の北側にある小さな滝です。周囲に散策路があり、フクジュソウやハゼノキの紅葉を見られます。



(T)

せせらぎ広場

国道246号線と水源地の間にある広場です。奥に見える国道246号線の高架下には遊具があります。



(Og)

山野草園

3月から4月にかけてミスミソウに始まり、カタクリ、ニリンソウ、ヤマブキソウなどの野草が順に咲きます。



(T)

水車小屋広場

水車小屋の裏に広がる広場です。テーブルが多く、大きなグループの昼食場所に利用できます。



(T)

野外教室広場

多数のベンチがあり、散策の休憩によく使われる広場です。園内では少ないクロマツが植えられています。



(T)

くぬぎの森

国道246号線の南にあり、クヌギの更新伐採を進めています。ヤマユリも咲き、散策路から見られます。



(T)

こならの広場

しらかしのいえと遊びの小川の間にある広場です。落葉樹のコナラが多く、夏は涼しく冬は暖かい広場です。



(T)

こもれび広場

鶴間駅方面から訪れる時の入口に隣接する広場で、ベンチがあります。近くには園名石が設置されています。

泉の森では、ロープ柵やカントリーヘッジ(木の枝など自然素材でできた柵)の内側は生き物たちの生活場所として保護しています。一般の方は立ち入りできません。

季節の花

泉の森では来園者の皆さまに楽しんでいただけるよう、さまざまな花を植えています。記載の花期は目安で、年により前後することがあります。



(T)

カワツザクラ

花期：2月中旬～3月中旬
場所：郷土民家園

郷土民家園内に計13本植えられており、ソメイヨシノが咲く1か月くらい前に、濃いピンク色の花を咲かせます。郷土民家園にはカワツザクラだけでなく、カンザクラ(花期2月下旬～3月中旬)やシダレザクラ(花期3月中旬～下旬)も植えられています。



(T)

サクラ(ソメイヨシノほか)

花期：3月下旬～4月上旬
場所：しらかしの池周辺ほか

しらかしの池兩岸をはじめとして、園内の数か所に植えられています。園内で見られるサクラは、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、オオシマザクラ、カスミザクラなど。一般的なサクラとは趣を異にしたウワミズザクラやイヌザクラも見ることができます。



(T)



(T)

アヤメ・カキツバタ

花期：5月上旬～中旬
場所：ショウブ田

アヤメは中池の東側の植栽地に約2,000株、カキツバタはそれより北のハツ橋デッキわきなどに植えられています。草地に生える濃い紫色のアヤメと、湿地に生える薄い紫色のカキツバタを同時に楽しむことができます。カキツバタは数品種が植えられています。



(T)

ハナショウブ

花期：6月上旬～中旬
場所：ショウブ田

中池の北側や展望デッキの下に計4か所設けられているショウブ田に約1,000株植えられています。多数の品種があるため、さまざまな色や形のハナショウブを見ることができ、品種により咲く時期が少しずつ異なるので、期間中何度でも楽しめます。



(T)

アジサイ

花期：5月下旬～6月下旬
場所：園内各所

しらかしの池の西側斜面やヒガンバナ斜面前をはじめとして園内各所に約1,000株植えられています。アジサイ、ガクアジサイ、ヤマアジサイ、ウズアジサイ、シチダンカなど種類も多く、水車小屋広場にはこれらより1か月遅く咲くタマアジサイもあります。



(T)

ヒガンバナ

花期：9月中旬～下旬
場所：ヒガンバナ斜面

しらかしの池から車道をはさんで南側を流れる引地川沿いにある、広さ400㎡のヒガンバナ斜面に約6,000株植えられています。白花と赤花の2種類がありますが、白花のほうが早く咲き始め、白花が見ごろを迎えるころに赤花が咲き始めます。

春の泉の森

春は目覚めの季節。活動を休止していた多くの生き物たちが活動を再開します。色とりどりの花もそのひとつ。泉の森で春を感じてみませんか。



新緑の雑木林 (Oh)



大和市の木 ヤマザクラ (H)



ヤマブキノソウ (Nj)



ミスミンソウ (Nj)



タチツボスミレ (Oh)



ウラシマンソウ (Nj)



イチリンソウ (Oh)



ヒトリシズカ (Nm)



ヤマシャクヤク (Nm)



ユキノシタ (Nm)



花の蜜が好きなメジロ (Sk)



パンの親子 (Nm)



カントウタンポポ (Oh)



ツミ (Kb)



さえぎるウグイス (Kr)



アカスジキンカメムシ (Nm)



成虫で冬を越したルリタテハ (Nm)



ヤマサナエ (Nm)



交尾するナミテントウ (Nm)



モンシロチョウ (St)



アオダイショウ (Nj)

夏の泉の森

強い日差しが降り注ぐ夏でも、木々が生き茂る森は周囲より気温が低く過ごしやすいもの。大型の昆虫をはじめとして生き物たちが活発に活動する季節なので森を覗いてみましょう。



ヤマユリ (Sk)



キツリフネ (St)



キビタキ (Kr)



カイツブリの親子 (Nm)



ミンハギ (Nj)



ハンゲショウ (Kt)



カブトムシ (Nm)



タマムシ (Sk)



褐色型のグツワムシ (Oh)



ハクセキレイの親子 (Nm)



キツネノカミソリ (Sk)



アカシジミ (Sk)



オニヤンマ (Sk)



ショウリョウバッタ (Nm)



アブラゼミ (Nm)



ナガエミクリ (Kt)



ウバユリ (Oh)



幼虫を守るエサキモンキツノカメムシ (Nm)



アジサイの剪定 (T)



ハグロトンボ (Nm)



クサギで蜜を吸うモンキアゲハ (Sk)



ホンダヌキ (St)

秋の泉の森

秋は実りの季節。森は色とりどりの実で彩られます。静かに迫る冬に備えて生き物たちが準備を始める季節でもあり、昆虫たちは急いで産卵を済ませ、冬鳥の訪れも始まります。



イロハモミジの紅葉 (Sk)



ガマズミの実 (Sk)



アカメガシワの実を食べるキジバト (Kt)



シジュウカラ (Kb)



イチヨウの黄葉 (Nm)



ミズキの落ち葉 (Nm)



センニンソウの実 (Nm)



大和市の花「野ぎく」の一種 ユウガギク (Kt)



クサギの実 (Oh)



ジョロウグモ (Nm)



ヒガンバナで蜜を吸うアゲハ (Nm)



ニホシトビナナフシ (Nm)



ムラサキシキブの実 (Sk)



ウラナミシジミ (Sk)



ハラビロカマキリ (Sk)



アキアカネ (Nm)



オオアオイトトンボ (Nm)



ササキリ (Nm)

冬の泉の森

冬は水鳥たちで水辺がにぎやかになる季節。静かに感じる森の中にも小鳥たちをはじめとしてたくさんの生き物が隠れています。冬でも泉の森は生き物で溢れているのです。



雪景色(Oh)



オオタカ(Kb)



マユミの実を食べるヒヨドリ(Kb)



大和市の鳥 オナガ(Nj)



ムクロジの黄葉と実(Sk)



クロモジの冬芽(Oh)



成虫で冬を越すツチイナゴ(St)



ハクセキレイ(Nm)



ヒドリガモ(St)



どんど焼き(T)



ムラサキツバメの集団越冬(Nj)



クロスジフユエダシャクの交尾(Nm)



コサギ(Sk)



ルリビタキ(Nm)



アオジ(Nm)



池に産卵に来たアズマヒキガエル(Nm)

泉の森にアユが来た!!

2018年の8月、泉の森を流れる引地川にアユが現れました。12月まで100匹以上が見られ、一部はしらかしの池まで登ってきたのです。引地川にアユが遡上することは珍しく、翌2019年は1匹も見られませんでした。また見られる年が来るでしょうか？



引地川のアユ(T)

森林の管理

泉の森の樹林地の大部分は、クヌギやコナラを主体とした雑木林と、スギやヒノキなどの針葉樹林で占められていますが、これらの林は人が植樹して作り上げたものです。クヌギやコナラは燃料として薪などに、スギやヒノキは建物や道具を作る木材として利用されてきたので、定期的に伐採されてきました。こうしてこれらの林は適度な樹齢の樹木で構成され、多様な生き物が暮らしていましたが、近年はいずれもほとんど利用されなくなってきたため伐採されず、老木化・巨木化が進んでいます。こうなった木は病害虫に弱くなったり、強風などで



危険木の伐採 (T)

倒れやすくなったりするので、泉の森ではこのような木の伐採を進めるとともに、木の密度が高すぎる林の間伐もしています。木が切られることを嫌う方も少なくありませんが、林を健全な状態に保ち生物多様性を維持するため、そして皆さまの安全のためには、木を切ることも必要なのです。

動植物に優しい管理

泉の森では、草地の一部を意図的に刈り残しています。草むらを好むバッタやカマキリなどの昆虫たちや、それをエサとする野鳥たちのためです。邪魔な草むらだと思われるかもしれませんが、泉の森は多くの生き物たちが暮らしている場所でもあるのです。泉の森の変化をタイムリーに感じるため、管理職員とボランティア共同で園内



観察資源保全点検の様子 (T)

を巡回・確認する観察資源保全点検を定期的に行い、動植物の保全に努めています。

外来生物問題とペットの遺棄

泉の森には動植物を問わず、多くの外来生物がおり在来生物の生活圏の縮小や個体数の減少の原因となっています。外来生物の根絶は容易なことではありませんが、在来種の保護や生物多様性の観点から駆除を継続しています。しかし、忘れてはならないのは彼らにも命があり、本来いた場所から人間の都合により連れて来られたということです。必死で生きているだけで、彼らに罪はないのです。

もう一つ問題となっているのはペットの遺棄です。イヌ、ネコ、ウサギ、カメ、金

魚など多種多様な動物が捨てられます。しかしこれらは遺失物や外来生物として扱われてしまうことがあります。公園などに放せば、自然豊かな場所でのびのびと暮らせるだろう、というのは間違いです。自分でエサをとることができずに、死んでしまうことも少なくありません。最後まで面倒をみる覚悟がないのなら、生き物を飼う資格はないのです。



外来種であるコイ (T)



しらかしのいえボランティア協議会ロゴマーク
「ドンちゃんグリちゃん」



毎年行われる交流会での一コマ (T)

自然観察センター・しらかしのいえを拠点に、泉の森やふれあいの森を中心に自然に関する活動をしているボランティア組織です。しらかしのいえ開館当初から「無理なく自分のできるところから」をモットーに、自分たちでできる範囲の活動を企画して実施しています。自然観察会や草花あそびなどを開催して自然のすばらしさを伝えるグループもあれば、下草刈りや外来種駆除、炭焼きなど自然の質を保つ作業をしているグループもあり、その活動は様々です。



カントリーヘッジ作り (T)



一般の方を対象にした観察会の実施 (T)

●ボランティアのおもな活動内容

- 各種行事(観察会や自然あそび)の開催
- カントリーヘッジ作り
- 外来生物の駆除
- 在来生物の保護
- 下草刈りなど森の管理
- 池のかいぼり
- 生物調査
- 竹炭作り
- シイタケの原木栽培

ボランティアは随時募集しています。対象は高校生以上の方ですが、大和市在住以外の方でも登録できます。あなたも泉の森で仲間と一緒に活動してみませんか？(申込先：自然観察センター・しらかしのいえ事務所 046-264-6633)



湿生植物園のかいぼりの実施 (T)



ハーブ園の上から親水広場を臨む



みどりのボランティア



園内を流れる多自然型護岸に改修した引地川



大花壇



グリーンアップセンター

ふれあいの森は泉の森のすぐ南、東名高速道路と相鉄線の間に位置し、緑の見本園、バラ園、ハーブ園、果樹園などがある、花や果樹を楽しむことができる公園です。園内を流れる引地川は三面護岸をはがし、緑豊かな多自然型護岸に作り変えたという経緯があります。園内にあるグリーンアップセンターでは、園芸に関する教室・展示会などを行っています。また「みどりの相談コーナー」では、植物に関する質問に専門家が無料でお答えしています(電話でも可)。

ふれあいの森で活動するみどりのボランティアは、花壇やハーブ園の植栽・除草などのほか、行事のお手伝いをするもあります。ボランティアはグリーンアップセンターで随時募集しています。

●グリーンアップセンター(コミュニティセンター草柳会館と併設)

開館時間9:30~21:00(みどりの相談コーナーは10:00~16:00)。月曜および年末年始休館(月曜が休日の場合は翌平日休館)。入館無料。

電話番号046-263-8711(ハナイイ)



動植物の採集禁止
(生き物持ち出し禁止)



飼っている生き物を放さない
(生き物持ち込み禁止)



野生生物への餌やり禁止



柵内に入らない



火の使用禁止
(キャンプ場を除く)



ゴミは持ち帰る



タバコは喫煙所で



園内は歩行者優先



ペットはリードをつなぎ
フンは持ち帰る

その他、他人に迷惑となる行為の禁止

2020年3月発行

禁無断複製・転載

- 発行：大和市(環境農政部みどり公園課)
〒242-8601 神奈川県大和市下鶴間1-1-1 ☎046-260-5451
- 編集：(公財)大和市スポーツ・よか・みどり財団
大和市自然観察センター・しらかしのいえ 石丸勇介、蔵清勝晴
〒242-0029 神奈川県大和市上草柳1728 ☎046-264-6633
- 協力：しらかしのいえボランティア協議会、大和市トコロジスト
- 写真：大浜あきら(Oh)、小川寿美子(Og)、北村治(Kt)、小林勉(Kb)、小林力(Kr)、坂本勝彦(Sk)、佐藤智寿(St)、蔵清勝晴(T)、中島博(Nj)、中村美津子(Nm)、本田実(H)、(公財)かながわトラストみどり財団(KTM)
- 編集協力：秋葉勝好、稲葉保男、大浜あきら、小川寿美子、世古全良、萩原尚治、本田実
- 印刷：松代印刷株式会社